

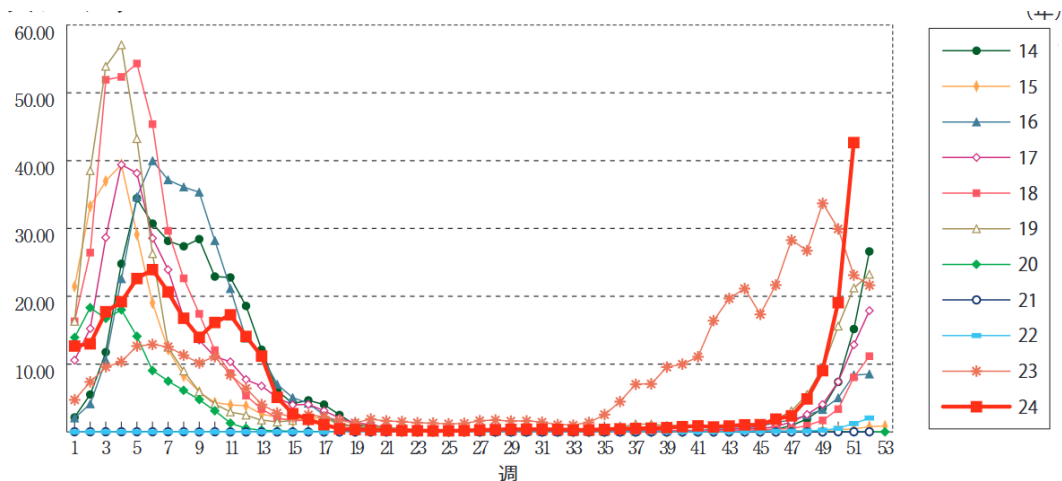
インフルエンザ流行に対する日本小児科学会からの注意喚起

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

1. インフルエンザの流行状況

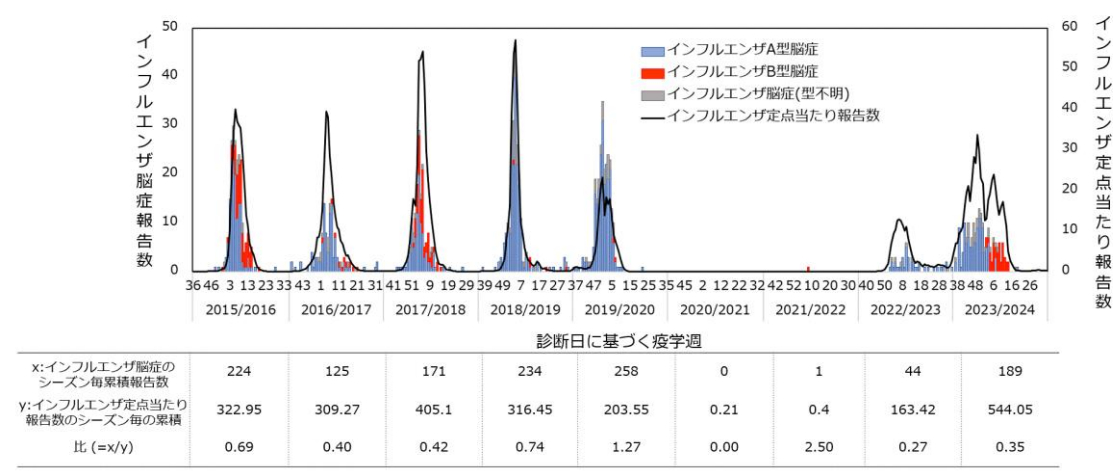
2024/25 シーズン(以下、今シーズン)のインフルエンザ定点当たり報告数は、2024 年第 48 週(11 月 25 日～12 月 1 日)から一部の都道府県で 10 を超過し注意報が発令され、第 51 週(12 月 16 日～12 月 22 日)時点で多くの都道府県で 30 を超過し警報が発令されています^{1),2),3)}。インフルエンザの流行に伴い、急性脳症の報告も増加しています。

図1 過去 10 年間のインフルエンザの定点当たりの報告数(文献1より引用)



2015/16 シーズン以降、インフルエンザ脳症は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行期間を除いて、毎年約 100-200 例が報告されており、2023/24 シーズン(以下、昨シーズン)は 189 例のインフルエンザ脳症が報告されました。インフルエンザ脳症報告数の推移は、概ねインフルエンザ定点当たり報告数と類似する推移を示しています⁴⁾。

図 2 インフルエンザ脳症のウイルス型別報告数、インフルエンザ定点当たり報告数、およびシーズン毎累積報告数の比の推移(文献 4 より引用)



昨シーズンまでのデータを踏まえ、今シーズンのインフルエンザの流行規模を考えると、インフルエンザ脳症の発生数もインフルエンザの流行に伴って増加することが予測されます。すでに、厚生労働省/国立感染症研究所が発行している感染症発生動向調査週報 (IDWR) 2024 年第 51 週 (12 月 16 日～12 月 22 日) の全数報告のデータでは、急性脳炎 20 例 のうち、インフルエンザウイルス A 型 13 例; 1 歳 (2 例)、3 歳 (4 例)、7 歳 (2 例)、8 歳 (2 例)、9 歳 (1 例)、10 代 (1 例)、20 代 (1 例)、インフルエンザウイルス型不明 2 例; 10 代で報告されています⁵⁾。

2. インフルエンザの予防について

脳症を含めたインフルエンザ重症例を予防するためには、インフルエンザに罹らないようにすることが重要です。手指衛生、咳エチケット、マスクの適時使用等の感染対策の徹底はインフルエンザの予防において重要ですので、引き続き実施を推奨します。

小児における重症肺炎やインフルエンザ脳症の予防についてのインフルエンザワクチンの有効性のエビデンスは十分明らかになっていませんが、6 歳未満の小児を対象とした 2015/16 シーズンの研究では、インフルエンザの発病防止に対するインフルエンザワクチンの予防効果は 60%と報告されています⁶⁾。また 18 歳未満の小児を対象とした 2010/11 シーズンから 2018/19 シーズンの複数の研究の解析では、インフルエンザに関連した入院の予防効果は AH1 亜型で 74.07%、B 型で 50.87%、AH3 亜型で 40.77%であり、有効性が報告されています⁷⁾。

2025 年 1 月時点では、AH1 亜型のインフルエンザウイルスが流行の中心ですが⁸⁾、今後 AH3 亜型や B 型インフルエンザウイルスの流行が始まる可能性もあります。AH3 亜型や B 型インフルエンザウイルスにおいても脳症を含めた重症例の発生があることから、今シーズンのインフルエンザワクチン接種を完了していない方は接種を推奨します。

3. インフルエンザ罹患後の注意点

インフルエンザにかかわらず感染症の重症化防止のためには、ホームケアにより適切な体温管理と脱水の予防を心がけることが重要です。高熱のまま保温しすぎないこと、経口補水液などを利用したこまめな水分摂取が推奨されます。

参考文献

1. 国立感染症研究所. 感染症発生動向調査週報 (IDWR) 過去 10 年間との比較グラフ (週報). <https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/weeklygraph.html> (参照 2025-1-17)
2. 厚生労働省. インフルエンザに関する報道発表資料 2024/2025 シーズン. インフルエンザの発生状況について https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou01/houdou_00018.html (参照 2025-1-17)
3. 国立感染症研究所感染症疫学センター. インフルエンザ流行レベルマップ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html> (参照 2025-1-17)
4. 国立感染症研究所 実地疫学研究センター、同 感染症疫学センター: 急性脳炎 (脳症を含む) サーベイランスにおける 2023/2024 シーズンのインフルエンザ脳症報告例のまとめ (2024 年 10 月 8 日時点) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/encephalitis-m/encephalitis-idwrs/12985-encephalitis-241119.html#> (参照 2025-1-17)
5. 厚生労働省、国立感染症研究所. IDWR 感染症週報 2024 年第 51 週 (12 月 16 日～12 月 22 日) <https://www.niid.go.jp/niid/images/idwr/pdf/latest.pdf> (2025 年 1 月 17 日アクセス)
6. 厚生労働省. 令和 6 年度 インフルエンザ Q&A https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/QA2024.html#Q22 (参照 2025-1-17)
7. Kalligeros M, Shehadeh F, Mylona EK et al. Influenza vaccine effectiveness against influenza-associated hospitalization in children: A systematic review and meta-analysis. Vaccine 38: 2893-2903, 2020
8. 国立感染症研究所. 病原微生物検出情報 (IASR). 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2020/21 ～ 2024/25 シーズン. <https://kansens-levelmap.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf> (参照 2025-1-17)